



Macユーザーのための
ネットワーク
構築講座
連載

(株)ピー・ユー・ジー 製品開発部門
プロジェクトリーダー
三浦 訓志

第3回

漢字Talk 7.5(PowerTalk)

前回は、ネットワークのハードウェアとファイル共有機能の使い方について説明しました。今回は漢字Talk7.5(PowerTalk)の機能について紹介し、応用例としてB.U.G.社製の「PerMan Gate/Inet」を取り上げてみます。



System7からファイル共有機能が標準でサポートされ、ユーザーは特別なソフトウェアなしに直接お互いに通信できるようになりました。漢字Talk7.5からは、ネットワークの機能が大幅に強化され、電子メールなどのグループワークを支援するいくつかの機能が加わりました。

「PowerTalk」と呼ばれるこの新しい機能は、Apple社が考えるAOCE(Apple Open Collaboration Environment)と呼ばれる技術に基づく製品で、基本的にはネットワークをより有効に、しかも簡単に使うことができるようにするものです。

PowerTalkの実際の機能としては、

- ・アップルメール
- ・カタログ
- ・電子署名
- ・鍵束

があります。漢字Talk7.5ではほかにもいろいろな機能が追加されていますが、ここではPowerTalkについてのみ解説します。

PowerTalkのインストール

まずMacintoshにPowerTalkがインストールされているかどうかを確認します。PowerTalkがインストール済みであればデスクトップ上に図1のようなアイコンが見えているはずです。もしこれらのアイコンが見えていなければまずPowerTalkをインストールする必要がありますので、漢

字Talk7.5のシステムディスクからインストールしてください。

Macintoshの再起動後、デスクトップの「特別」メニューから「鍵束を使う」を選択し、メッセージに従ってパスワードを入力するとPowerTalkの各種機能が使えるようになります。



図1 グローバルカタログのアイコン(左)と郵便箱のアイコン(右)

カタログで ネットワーク上の情報を管理

カタログは、いわばネットワークの住所録のようなもので、ネットワーク上のファイル共有サーバーや電子メールの利用者をあたかも文書ファイルのようにまとめて見ることができるようにするものです。カタログには、「グローバルカタログ」と「個人用カタログ」の2つがあります。デスクトップ上のグローバルカタログを

ダブルクリックで開いてみましょう。パスワードを入力すると、カタログウィンドウが開きます(図2)。

その中の「AppleTalk」アイコンを開くとゾーンのリストがフォルダのイメージで表示され、どれかのゾーンを選んでさらにダブルクリックすると、そのゾーンの中のファイル共有サーバーや電子メール利用者のリストが表示されます。

カタログのウィンドウからメールのアイコンをアップルメール(次の項を参照のこと)にドラッグ&ドロップしてメールの宛先を指定したり、ファイル共有のアイコンを開いてサーバーをマウントすることができます。このように、ネットワーク上の資源が普通のフォルダやファイルと同じように見える(管理できる)というのがカタログの機能の1つです。

個人用カタログは、アップルメニュー内の「郵便とカタログ」フォルダ内にあり、利用者やグループなどの登録を行うことができます。利用者の情報は、個人のプロフィールやネットワークアドレスなどをまとめた名刺として一括して保存しておくことができます。

個人用カタログに自分の名刺(図3)を作ってみましょう。個人用カタログウィンドウ(図4)を開き、「カタログ」メニューから「新規利用者」を選択すると、ウィンドウ内に「名称未設定の利用者」が作られます。名前を自分の名前に変更し、さらにダブルクリックで開くと情報入力のためのウィンドウが開きます。名刺・個人情報・電話番号・ネットワーク番地などのポップアップメニューがありますので、必要な情報を入力してください。他の人の情報を登録するには、自分で新規に作成する以外に、グローバルカタログから個人用カタログにドラッグ&ドロップで追加することもできます。ここに追加したネットワーク番地の宛先情報はアップルメールの宛先指定にも使えますので、頻繁にアクセスする相手先の情報は個人用カタログに登録しておくといでしょう。

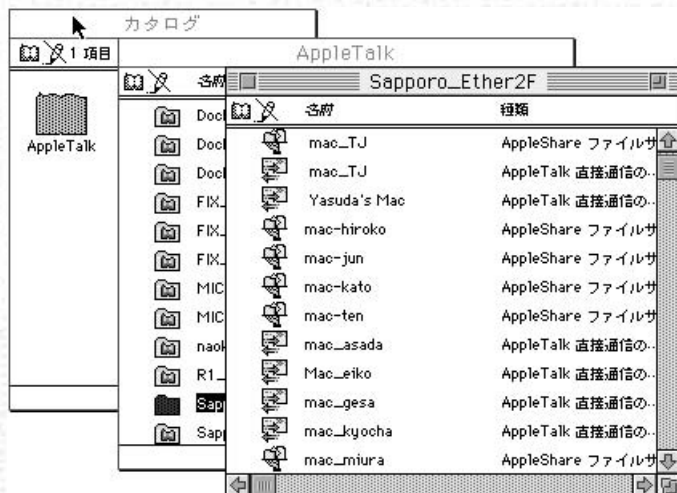


図2 グローバルカタログを開いたところ



図3 「名刺」を作ってみよう



図4 個人用カタログウィンドウの例

アップルメール：多機能な電子メール

アップルメールは、PowerTalk に標準で付属している電子メールのアプリケーションです。これを使えば、PowerTalk をインストールしているMacintosh間で電子メールの送受信が誰でも簡単にできるようになります。

アップルメールは特別なメールサーバーなどを用意する必要がなく、Macintoshが2台以上あればメールの送受信が可能です。では、早速電子メールを送ってみましょう。

アップルメニュー内の「郵便とカタログ」フォルダから「アップルメール」を選択してアップルメールを起動すると、ウィンドウが開きます（図5）。

まず最初にメールの宛先（受取人）を指定します。「受取人」ボタンをクリックするとダイアログが開くので、カタログを使って宛先を選択します。宛先をネットワーク上から検索して選択したり、個人用カタログに登録した相手先から直接選ぶこともできます。選んだ宛先をダブルクリックするか、そのまま受取人欄にドラッグして宛先を指定します。

次に下のメッセージ欄にメールの文書を入力します。メッセージ欄には普通の文字情報以外に、PICT 画像やQuick Time ムービー、サウンドも含めることができます。自分の声を録音して音声メールを送ることもできますが、オフィス内ではあまりやらないほうがいいかもしれませんね。

さらに「同封」ボタンをクリックしてファイルを選択すれば、メールにファイルを同封することもできます。アップルメールには最初からメールの形式としていくつか「便せん」が用意されています。「ファイル」メニューの「便せん」で便せんを選べるので、適当なものを使ってください。「メール」メニューから「送る...」を選択すると指定の宛先へメールが送信されます。

受信側では、メールを受信するとダイアログの表示やメニューバーの郵便アイコンの点滅でメールの受信が通知され、デスクトップ上の郵便箱にメールが保存されます。郵便箱のアイコンを開くと受け箱のウィンドウの中に受信したメールが入っているので、それを開いて受信したメールを読みます（図6）。さらに、差

出人へ返事を送りたいときは「メール」メニューの「返事」を選ぶと新しいメールウィンドウが開き、差出人へメールを送り返すことができます。

郵便箱には送信済みのメールも保存されています。郵便箱のアイコンを開いたときに「郵便箱」メニューから「送付箱」を選択すると、その一覧を見ることができます。さらに同メニューの「初期設定」を選択すると、メール受信時の表示方法や送信済みメールの保存期間の設定などを変更することができます。

「送付箱」の大切な機能として、宛先が見つからない場合も考慮されていることがあります。メールが送信されたときに宛先のMacintoshが起動していなかったりする場合は、メールが失われてしまわないように「送付箱」に送信メールが「送信待ち」の状態でも保存され、宛先のMacintoshがあるかどうかを定期的に調べることによって、宛先が見つかったときにメールを送るような仕組みになっています。これらの処理はすべて自動的にバックグラウンドで行われますので、ユーザーからはアプリケーションでメールを送信し終わった時点でメールが送られたよう

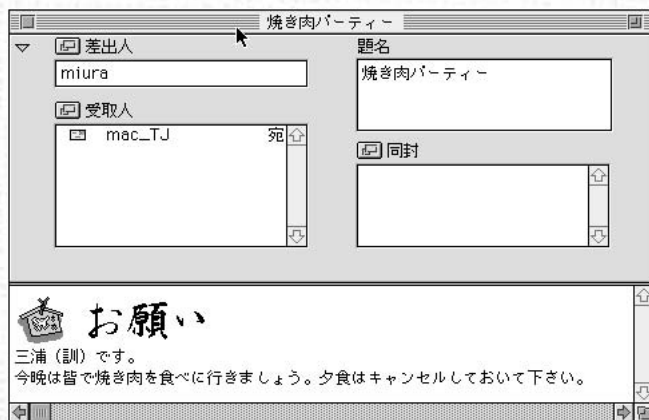


図5 アップルメールウィンドウ



図6 郵便箱に受信メールが入っている



に見えます。

さらに進んだ使い方としては、PowerShare サーバーと呼ばれる特別なサーバーを用意する方法もあります。PowerShare サーバーはメールの送信側と受信側の間に入り、メールの中継を行います。24時間稼働しているサーバー上に各個人用の郵便箱が登録されますので、送信側のメールは必ずサーバーに届き、サーバーのほうで受信側への配送を担当するというようになります。

電子署名で情報を守る

受け取ったメールの内容が非常に重要な場合、メールを送った人が本当に本人なのかどうかを確認する必要があります。このようなことを電子的に実現しているのが「電子署名 (DigiSign)」です。これは普段日常的に使っている印鑑と同じような意味を持っています。印鑑を利用する場合に印鑑証明が必要なように、電子署名を利用する場合も印鑑証明に相当する手続きが必要です。PowerTalk には証明発行の申請書を作成するためのツールも用意されています。PowerTalk フォルダから「DigiSign ユーティリティ」を起動し、必要な情報を入力すると、署名プログラム承認申請書と未承認の署名プログラムの2つのファイルを作成することができます。あとはこれらを認証サービスを行っている機関に送れば「世界で唯一」のDigiSignを取得できます。国内では(株)フィクスが米国RSA社と提携を結んで印鑑証明の発行に相当する業務を行っています(問い合わせ先: TEL. 011-231-7068)。

DigiSign を利用するとファイルに署名することができ、そのファイルが署名後に変更されていないことを確認できるようになります。たとえば契約書など、重

要なファイルをやり取りするような場合には重要な役割を果たします。

署名の方法はとても簡単で、署名対象のファイルを自分の署名プログラムにドラッグ&ドロップするだけです。ファインダーでそのファイルの「情報を見る」と、DigiSign のアイコンが表示されて電子署名がなされていることが確認できます。この電子署名のアイコンをクリックすると検証が行われ、署名後に何らかの変更が加えられていないかどうか確かめることができます。もし変更が加えられている場合は警告のダイアログが表示されます。メールを送信するときに署名を行えば、受信側で送信者が本人かどうかの確認ができるというわけです。

このように、データが変更されていないかを検証したり、メールの差出人が確かに本人であることを確認できるのがDigiSignの目的ですが、署名を行うときに入力するパスワードを本人しか知らないということが前提になっていますので、パスワードの管理には十分注意しなければなりません。パスワードを盗まれるということは実印を盗まれるのと同じことといえるのです。

鍵束でパスワードを一括管理する

「鍵束」は、各種ネットワークサービスやPowerTalk 対応の通信アプリケーションなどのいろいろなパスワードを一括管理する仕組みです。ファイル共有を行うサーバーが増えてくると、それぞれに別々のパスワードを覚えておくことが結構大変で、滅多にアクセスしないサーバーなどはパスワードを忘れてしまってアクセスできなくなることもあるかもしれません。

PowerTalk では、これらのパスワードを「鍵束」としてまとめて保管しておき、1つのパスワードで、すべてのパスワード

を参照できるようにしています。鍵束にパスワードを登録しておけば、あとは1つのパスワードだけでアクセスが可能で、いちいちパスワードを入力する手間が省けて非常に便利です(鍵束を使うとますます忘れるとの指摘もあるかもしれませんが.....)。

鍵束へ新たにパスワードを登録する方法も簡単です。たとえば、ファイル共有サーバーであれば通常のマウント操作の後に「鍵束に追加しますか」のダイアログが開くので、そこでOKを選択するだけでよいのです。登録以降はサーバーにパスワードの設定があってもPowerTalk が自動的に照合を行うのでパスワードの入力なしにマウントが可能になります。

最初にPowerTalk を使うときに入力するパスワードは、実はこの鍵束のパスワードで、いわばマスターキーに相当する大切なものです。ですから、パスワードの付け方が安易すぎたと思った場合は、鍵束を開いて「利用暗号名変更」ボタンをクリックしてパスワードを変更しておきましょう。

MacTCPにより 標準でTCP/IPをサポート

漢字Talk7.5の機能でPowerTalk 以外に忘れてならないのが、TCP/IPドライバ「MacTCP」が標準で付属するようになったことです。これでMacintoshは標準でTCP/IPをサポートしたことになります。「MacTCP」自体は早くから世の中に存在していたので、これを使ったアプリケーションは、すでにたくさんあります。一方、Windowsの世界では、まだ標準にはなっていません(Windows95、Windows NTから標準)ので、Macintoshのほうが一歩リードしているといえるかもしれません。



PowerTalkの説明はこれくらいにして、次に応用例を紹介します。初心者にはやや専門的すぎる内容かもしれませんが、PowerTalkを説明したついでの実例としては、ちょうどよいと思います。実は、以下の説明を参考にするとPowerTalkからインターネットの世界をのぞくことが可能になるのです。

インターネットとUNIXメールシステム

インターネットでは電子メール(E-mail)によるコミュニケーションが普及しており、全世界規模でメールがやり取りされています。共通の通信規約(プロトコル)としてTCP/IPが使われていることから、企業レベルのインターネットのサイトではUNIXマシンによるネットワークがベースになっていることがほとんどです。TCP/IP上のメール送受信のためのプロトコルとしてはSMTP(Simple Mail Transfer Protocol)が使われており、UNIXマシンでは「sendmail」というプログラムがSMTPのサーバー機能を実現

しています。受信したメールはすべてファイルとして保存され(メールスプール)ユーザーはUNIXマシンにログインしてそれを読み出します。さらにネットワーク内に複数のUNIXマシンがある場合、いちいち受信メールを保存しているマシンにログインしてメールを読むのも面倒なので、UNIXマシンではユーザー名とパスワードを照合することでメールをスプールしているマシン以外のマシンからでもメールを読み出せる仕組み(POP:Post Office Protocol)も用意されています。

PowerTalkとUNIXのE-mailをつなぐ「PerMan Gate/Inet」

MacintoshはPowerTalkでメールを標準でサポートしましたが、残念ながらUNIXのE-mail(=インターネットのE-mail)とは互換性がないので、そのままではお互いにメールをやり取りすることができません。メールの宛先がMacintoshかUNIXかを意識して送信の度にメールソフトを切り換えるのは結構煩わしいものがあります。

ここで紹介する「PerMan Gate/Inet」は、PowerTalkとUNIXのE-mailを統合するソフトウェアで、これを使うとUNIX

E-mailをMacintoshの郵便箱に受信したり、アップルメールなどのPowerTalk対応アプリケーションからUNIX E-mailを送信することが可能になります。UNIX E-mailとのやり取りを可能にしながらPowerTalkの機能をそのまま享受できるというわけです。

さらに「PerMan Gate/Inet」の大きな特長は、送受信の双方が「PerMan Gate/Inet」を利用していけば、インターネットを経由してPICT画像、QuickTimeムービー、サウンドなどを含むアップルメールをそのまま送受信できるということです。インターネットや社内ネットワークなどですでにUNIXのメールシステムが運用されているネットワーク環境で使用すると、UNIXのメールシステムを利用しながらPowerTalkのさまざまな機能が使えるので大変便利です。

「PerMan Gate/Inet」のインストールは非常に簡単で、「PerMan Gate/Inet」を機能拡張フォルダにコピーするだけです(図7)。なお、「MacTCP」の設定については、すでに終わっていることを前提としています(これについては次回に詳しく説明します)。

Macintoshを再起動後、「郵便とカタログ」フォルダ内にあるPowerTalkの鍵

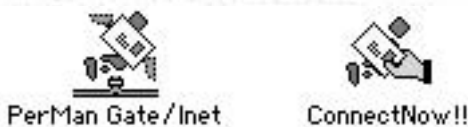


図7 PerMan Gate/Inetのアイコン(左)と付属のソフトConnectNow!!のアイコン(右)



図8 鍵束に追加するサービスの選択ダイアログ

束に「追加」ボタンで「PerMan Gate/Inet」のサービスを追加します(図8、9)。次に、こうして追加された鍵束の「インターネットメール」を開き、インターネットメール設定ダイアログで、インターネットのアカウント名やSMTPサーバー、E-mail アドレス、パスワードなどを設定します(図10)。接続間隔を指定すれば、定期的にサーバーに自動的に接続を行い、メールの着信をチェックします。最後に「現在...」の設定で「インターネット経由直接」をオンにすることで「PerMan Gate/Inet」のサービスを利用できるようになります(図11)。

指定サーバーへの接続は時間指定によ

る自動接続以外に、付属のアプリケーション「ConnectNow!!」を使って手動で随時サーバーに接続することもできます。ダイヤルアップIP接続サービスなどで不定期に通信するケースではこれを使うとよいでしょう。

「PerMan Gate/Inet」で設定できるメールの送信形態には「TEXT+BinHex」、「TEXT+PowerTalk フォーマット」、「PowerTalk フォーマット」があり、メールの送信時にどれかを選びます。「TEXT+BinHex」ではメールのテキスト部分が送信され、イメージやムービーはカットされます。同封ファイルがあればその内容はBinHex形式に変換されて送

信されます。「PowerTalk フォーマット」では、すべての内容がPowerTalk フォーマットで送信され、「TEXT+PowerTalk フォーマット」では、テキスト部分と、テキストをPowerTalk フォーマットに変換した内容の両方が送信されます。

「PerMan Gate/Inet」販売問い合わせ先：
販売代行 株式会社POWER STORE
(TEL：0120-804-100)

以上、漢字Talk7.5 (PowerTalk) と「PerMan Gate/Inet」について解説しました。次回はMacintoshとUNIXの通信をテーマに解説します。



図9 インターネットメールが鍵束に追加された状態

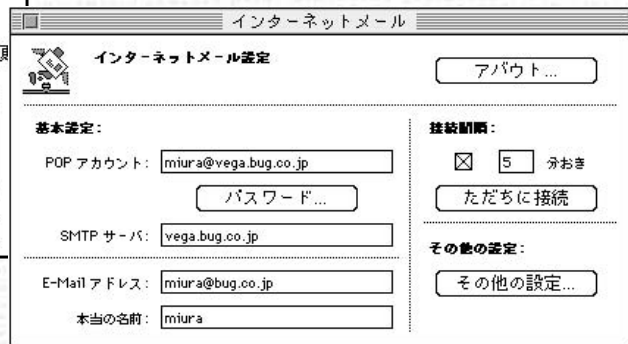


図10 ダイアログで各種パラメータを設定



図11 「現在...」の設定もオンにしておく



図12 ネットワーク番地にインターネットアドレスを登録できる



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp